

1. 調査テーマ

小・中学生の子どもをもつ保護者の子育て生活の実態、しつけや教育に関する保護者の意識

2. 調査方法

学校通しによる家庭での自記式質問紙調査

3. 調査時期

第1回調査 1998年12月

第2回調査 2002年9月

第3回調査 2007年9月

4. 調査対象

【1998年調査（第1回調査）】

首都圏（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県）の小学3年生～中学3年生の子どもをもつ保護者4,718名（配布数8,380通、回収率56.3%）。

※分析は母親（4,475名）のみを対象とした。

【2002年調査（第2回調査）】

首都圏（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県）の小学1年生～中学3年生の子どもをもつ保護者6,512名（配布数9,038通、回収率72.1%）。

※分析は母親（6,085名）のみを対象とした。

※1998年調査との比較を行う場合は、小学3年生～中学3年生の母親（4,896名）のデータを用いた。

※2002年調査では、比較群として地方都市（1,517名のうち母親1,438名）、および郡部（1,774名のうち母親1,518名）でも調査を行った（地方配布数4,190通、回収率78.5%）。しかし、今回の分析には含めていない。

【2007年調査（第3回調査）】

首都圏（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県）の小学1年生～中学3年生の子どもをもつ保護者7,282名（配布数9,962通、回収率73.1%）。

※分析は母親（6,770名）のみを対象とした。

※1998年調査との比較を行う場合は、小学3年生～中学3年生の母親（5,315名）のデータを用いた。

5. 調査項目

子育ての悩み・気がかり／しつけや教育の情報源／子どもの日ごろの様子や生活習慣／子育ての場面／子育てで心がけていること／家庭の教育方針／配偶者との関係／子どもの家庭学習の様子／学習へのかかわり／子どものメディアの利用／子どもの休日の過ごし方／学校の取り組み・指導に対する満足度／学力観・勉強観／希望する進学段階／中学受験／習い事・塾／教育費／子育ての楽しさ

分析の枠組みとサンプル数

今回の調査では、調査対象となった保護者のうち、母親に絞って分析を行った。
分析の枠組みとサンプル数は、以下のとおりである。

		9年経年比較									
1998年調査	首都圏・母親 合計4,475名	小3生	小4生	小5生	小6生	中1生	中2生	中3生	学年不明 17名		
		492名	510名	543名	585名	901名	806名	621名			
2002年調査	首都圏・母親 合計6,085名	小1生	小2生	小3生	小4生	小5生	小6生	中1生	中2生	中3生	学年不明 2名
		577名	610名	612名	573名	604名	603名	858名	823名	823名	
2007年調査	首都圏・母親 合計6,770名	小1生	小2生	小3生	小4生	小5生	小6生	中1生	中2生	中3生	学年不明 18名
		728名	709名	659名	580名	475名	474名	1,094名	1,000名	1,033名	
		5年経年比較									

※調査対象となった保護者の内訳は、次のとおりであった。

1998年調査

首都圏：母親4,475名、その他（父親や祖父母など）210名、不明33名

2002年調査

首都圏：母親6,085名、その他（父親や祖父母など）320名、不明107名

地方都市：母親1,438名、その他（父親や祖父母など）113名、不明20名

郡部：母親1,518名、その他（父親や祖父母など）205名、不明51名

2007年調査

首都圏：母親6,770名、その他（父親や祖父母など）442名、不明70名

※本報告書では母親のみを分析対象とした。

※2007年調査の全体値は小1～中3生の子どもの母親6,770名を母数とした数値である。

※1998年調査、2002年調査、2007年調査の9年間比較は、小3～中3生を対象にしている。2002年調査、2007年調査の5年間比較は、小1～中3生を対象にしている。

※本報告書では、学年の呼称を「小1生」…「中3生」と略記した。また、第1章以降、本文中での調査年の表記を、「98年調査」「02年調査」「07年調査」と略記した（図表および図表下の注記を除く）。

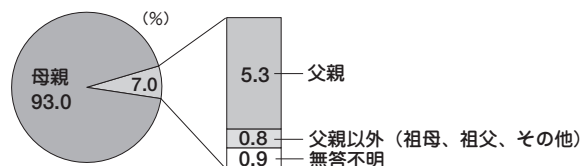
※本報告書で学年段階を示す「小学校低学年」は小1～小2生、「小学校中学年」は小3～小4生、「小学校高学年」は小5～小6生、「中学生」は中1～中3生をさしている。

※本報告書で使用している百分比（%）は有効回答数のうち、その設問に該当する回答者を母数として算出し、小数点第2位を四捨五入して表示した。四捨五入の結果、数値の和が100にならない場合がある。

基本属性

今回の調査でご回答いただいた保護者7,282名について、子どもとの続柄の内訳を図Xに示した。回答した保護者のうち、母親は93.0%を占めた。以下で説明する基本属性は、分析の対象である小1～中3生の子どものをもつ母親6,770名を母数とした数値である。

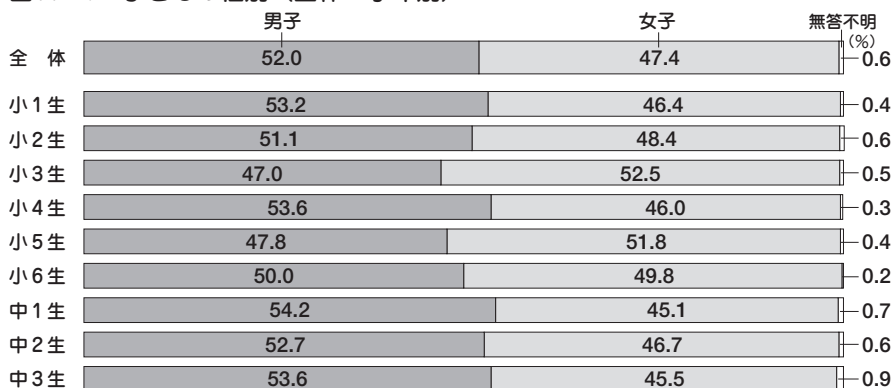
図X 続柄



A 子どもの属性

子どもの性別 (図A-1) をみてみると、全体では男子のほうが若干多いが、小3生、小5生では女子のほうが多い。学年 (図A-2) では、小学校高学年の割合が低く、一方で中学生は高い。分析をする際にはこのようなサンプルの特徴を考慮して行うようにした。また、今回の調査では、1998年調査、2002年調査に引き続き私立学校にもご協力いただいた。学校の種類の割合 (図A-3) をみてみると、小学生では9割程度が公立学校に通学する子どもの母親である。中学生は私立学校に通学する割合が若干高く、公立学校に通学する割合は75%程度である。子どもの出生順位 (図A-4) は第1子のほうが第2子以降より若干割合が高いことがわかる。

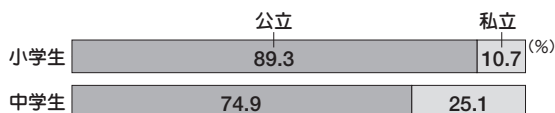
図A-1 子どもの性別 (全体・学年別)



図A-2 子どもの学年



図A-3 学校の種類 (学校段階別)



図A-4 子どもの出生順位

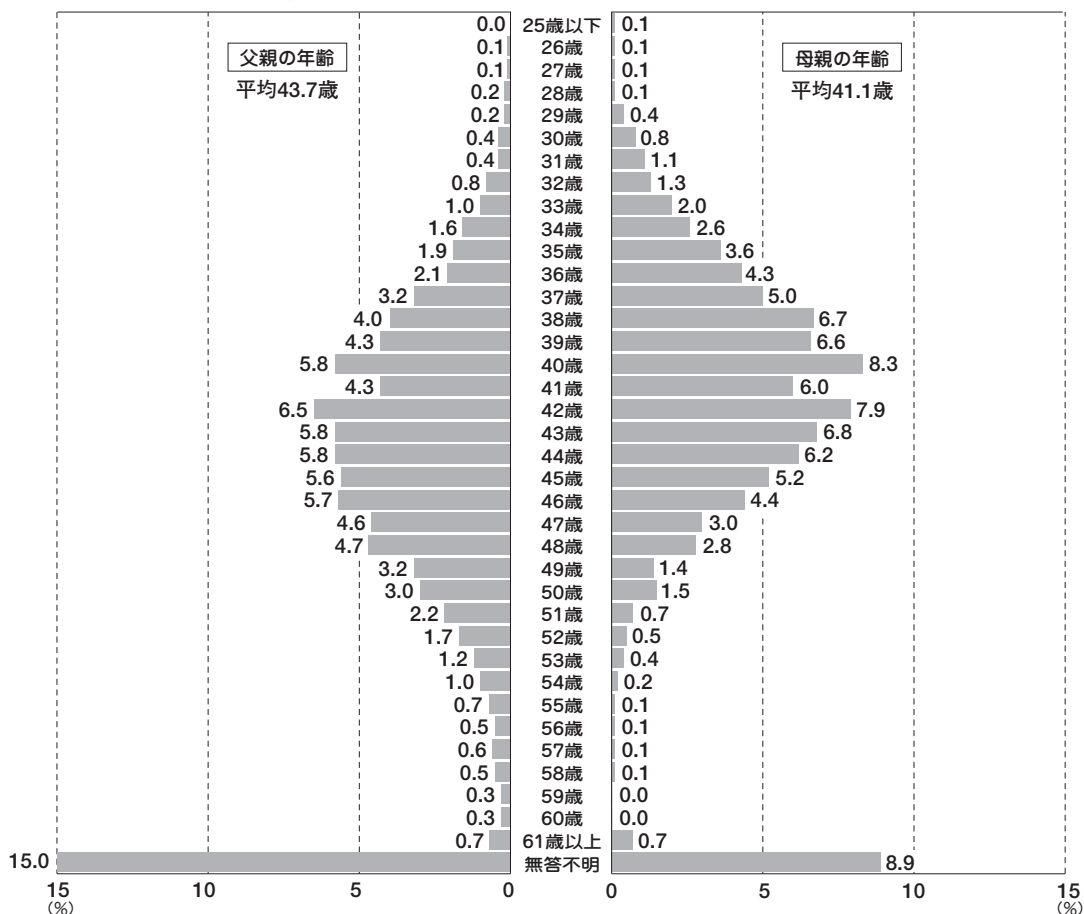


B 保護者の属性

図B-1で父母の年齢をみてみよう。母親の平均年齢は41.1歳で、父親の平均年齢43.7歳よりも2.6歳低い。分布では母親の場合は、40歳が8.3%でもっとも多く、父親は42歳の6.5%がもっとも多い。表B-1で学年別の父母の平均年齢をみてみると、父親、母親とも学年が上がるにつれ平均年齢は上がる。平均年齢が40歳を超えるのは、母親の場合は小4生で、父親の場合は小2生である。

母親の就業状況(図B-2)は、全体ではパートやフリーが40.5%でもっとも多く、専業主婦が34.6%で続く。常勤は19.2%で約5分の1にあたる。学年別でみてみると、小学校低学年で専業主婦の割合が高く、学年が上がるにつれて、割合は低くなる。パートやフリーの割合は学年が上がるにつれて高くなり、小5生で、専業主婦よりも高くなる。常勤の割合は学年が上がるにつれて若干高くなる。これらのことから、学年が上がるにつれて、専業主婦からパートやフリーへ

図B-1 父親・母親の年齢分布



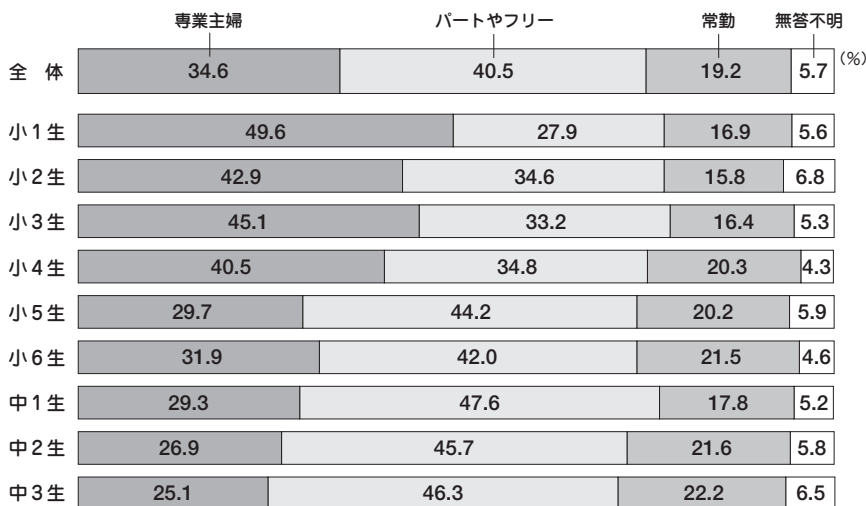
表B-1 父親・母親の平均年齢(学年別)

	(歳)								
	小1生	小2生	小3生	小4生	小5生	小6生	中1生	中2生	中3生
母親の年齢	37.3	38.0	38.9	40.1	41.0	42.1	42.4	43.3	44.1
父親の年齢	39.5	40.3	41.3	42.7	43.8	44.4	45.2	46.0	47.1

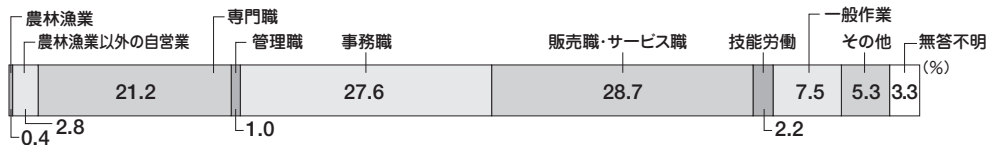
移行している場合が多いことがうかがえる。パートやフリー、常勤と回答した母親には職種もたずねた（図B-3）。もっとも多かったのは、「販売職・サービス職（店員、美容師、クリーニング、接客など）」で28.7%、「事務職（官公庁や民間企業の一般事務、経理、営業職など）」が27.6%、「専門職（教師、医師、看護師、法律家、研究者など）」が21.2%と続く。父親の職種（図B-4）と比較してみると、父親では「管理職（官公庁や民間企業の課長以上の管理職）」が24.3%でもっとも多く、これは母親の場合の1.0%と大きな違いがある。さらに「事務職」が16.2%、「技能労働（製造、修理、大工、とび職などの熟練労働）」が14.9%と続く。

母親（図B-5）と父親（図B-6）の学歴をみてみると、母親では44.7%、父親では51.0%が「大学・短期大学を卒業している」と答えている。

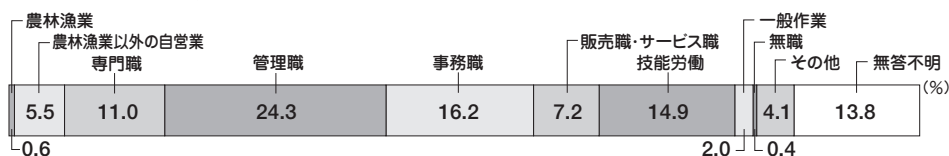
図B-2 母親の就業状況（全体・学年別）



図B-3 母親の職種



図B-4 父親の職種



図B-5 母親の学歴



図B-6 父親の学歴



注) 母親と父親の学歴については、「あなたは(あなたの配偶者は)大学・短期大学を卒業している」を選択した者を「大卒・短大卒」、選択しなかった者を「非大卒・非短大卒」とした。

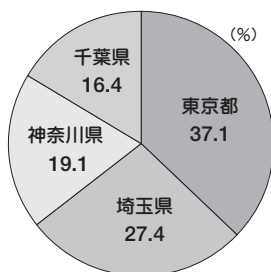
C 家庭環境

学校の設立地域（図C-1）は37.1%が「東京都」、27.4%が「埼玉県」、19.1%が「神奈川県」、そして16.4%が「千葉県」であった。越境通学の場合も含まれるであろうが、居住地域の割合と大きな差はないと思われる。

生活の経済的なゆとりがあるかどうかをたずねたところ（図C-2）、回答はほぼ半分に分かれた。約半数の47.4%が「ゆとりがある」（「ゆとりがある」＋「多少はゆとりがある」の％）と答えている。一方、ほぼ同じ47.0%が「ゆとりがない」（「あまりゆとりがない」＋「ゆとりがない」の％）と答えている。

家族構成（図C-3）では「核家族（父親・母親と子どもだけ）」がもっとも多く74.1%を占め、「三世同居家族（親子と祖父母、祖父だけ、祖母だけでも含む）」は18.2%にとどまる。

図C-1 学校の設立地域



図C-2 生活の経済的なゆとり



図C-3 家族構成

